

2024 年度 聖マリアンナ医科大学看護専門学校
学校関係者評価委員会概要

学校関係者評価委員長
明石嘉浩

1. 第7回学校関係者評価会議の概要

1) 開催日程・場所

- (1) 日時 2025年3月4日(火) 13時～16時
- (2) 場所 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 6号教室
- (3) 主催 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 学校評価委員会

2) 委員(12名)

委員長 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 担当理事 明石嘉浩

委員 <学校関係者>

高等学校校長・教頭 2名

<外部講師>

聖マリアンナ医科大学看護専門学校 非常勤講師

<看護団体関係者>

公益社団法人 川崎市看護協会 会長

<学校保証人>

卒業生保証人

在校生保証人

<法人関係者>

聖マリアンナ医科大学看護専門学校 非常勤講師

聖マリアンナ医科大学ナースサポートセンター長

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 看護部副部長

本校同窓生

本校

学校評価委員会 委員長 校長 鈴木 昌子

委員 副校長 清水泰子

委員 2名

学校職員 15名

3) 事前配布資料

- (1) 学校関係者評価の目的
- (2) 学校関係者評価の公表
- (3) 学校評価の経緯
- (4) 2024年度 自己点検自己評価表の見方
- (5) 自己点検自己評価結果 ①総括 ②大項目別結果(現状と分析、今後の課題)

【参考資料】

- 資料 1：自己点検自己評価結果
- 資料 2：2024 年度 教育目標到達度評価
- 資料 3：カリキュラム運営に関する評価
- 資料 4：聖マリアンナ医科大学看護専門学校（教員ラダー）
- 資料 5：教員属性
- 資料 6：臨地実習ルーブリック
- 資料 7：組織図
- 資料 8：看護師国家試験結果推移
- 資料 9：18 歳人口と本校入試志願者の推移
- 資料 10：入学者数・卒業者数・卒業後の進路
- 資料 11：学校安全計画

【その他資料】

- ・ 学習ガイダンス

4) 議事進行

時間	内容	担当
13:00 10分	校長挨拶 ・趣旨説明、会議の取りまとめ方、公表について ・参加者紹介	鈴木昌子
13:10 50分	2024 年度自己点検自己評価結果説明 ・本校の状況 ・分析と対策	清水泰子
14:00 10分	休憩	
14:10 20分	学校内見学 教室・実習室・教務室など	委員
14:30 30分	意見交換 ・説明についての質疑応答	司会：委員 書記：委員
15:00 50分	・本日の評価実施から公表までの進め方 ・評価実施 視点 <視点> 1,自己点検自己表は客観的に行われているか 2,自己点検自己評価の結果の内容が適切か 3,自己点検自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 4,学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か	司会：明石嘉浩 委員長 書記：事務
15:50	まとめ	鈴木昌子

＜専門学校の入学者数減少と今後の課題＞

近年、少子化と大学進学志向の影響により、専門学校への進学者数が減少しているという現実
に直面しています。現役の高校生だけでなく、社会人や進路変更者に対しても、柔軟に対応して
いく必要があると多くの意見が集まりました。特に、社会人入試の拡充や、進路変更を希望する
学生に向けた入試改革が重要であり、2025年度の入試改革では、試験科目数の削減や回数増加
といった変更が行われています。進路変更を希望する学生にとって、この変更は大きな評価を受
けており、これを今後さらに活用していくことが求められています。

一方で、入試内容に関しては、小論文と面接だけ（一般入学試験Ⅰ期を除く）で入学可能な
点について懸念の声も上がりました。看護に必要な視点やクリティカルシンキングを見極めるた
めの振り落としの力が不足しており、これが学生の育成にどのように影響するかを考慮した改革
が必要だという意見です。このような視点は、入試制度全体の見直しにもつながる可能性があり
ます。

実習に関しては、7人1組での実施が多く現場で課題となっています。特に、1グループの人
数が多いことから、指導が十分に行き届かないという懸念があります。実習グループの人数調整
において、学校側は理想的には5～6人1組としていますが、実習を受け入れる病院や病棟の制限
があるため、どうしても人数が多くなってしまおうという状況です。これに対して、今後はより適
切な調整が求められるとともに、教員と実習指導者との連携を強化し、密な関係を築いていくこ
とが重要だとされています。

また、国家試験前の講習に関して、直前になって新たな知識を詰め込む形になるため、学生に
とっては頭の整理ができないという声もありました。講習のタイミングや内容の見直しが今後の
課題として挙げられています。

評価に関する問題も指摘されました。特に、学生が教員との一対一の関係性で適切に評価され
ない場合があり、偏った評価や伝えきれない思いが影響している可能性があるとのことです。複
数の評価基準を設け、評価の透明化を進めることで、学生がより適切に育成される環境を作るこ
とが重要だという意見がありました。教員と学生との関係性においても、見える化された評価の
導入が望まれています。

さらに、卒業生の活躍が大きなアピールポイントになるとの意見もありました。多くの卒業生
が地域の病院や医療機関で活躍しており、そのネットワークを活かすことで、広報活動を強化す

ることができるとされています。専門学校ならではの密な指導や実習支援を強調し、広報活動においても卒業生の活躍をもっと前面に出すべきだと感じられました。

最後に、学校側でも実習グループの人数調整に関して理想的な形を目指しているものの、受け入れ病院や病棟の制限があるため、調整が難しいという現実があることが共有されました。今後は、実習病棟の数やグループ編成においてさらに工夫を凝らし、現場の負担を軽減しつつ質の高い指導が行えるような体制を構築する必要があります。

全体として、入試改革や評価の透明化、実習指導の強化、卒業生ネットワークの活用といった多方面での改善が求められています。これらの課題を乗り越えることで、今後より多くの学生にとって魅力的な教育環境を提供し、専門学校としての競争力を高めることができると考えられます。